

むし歯は遺伝?! むし歯菌はどこからやってくる?

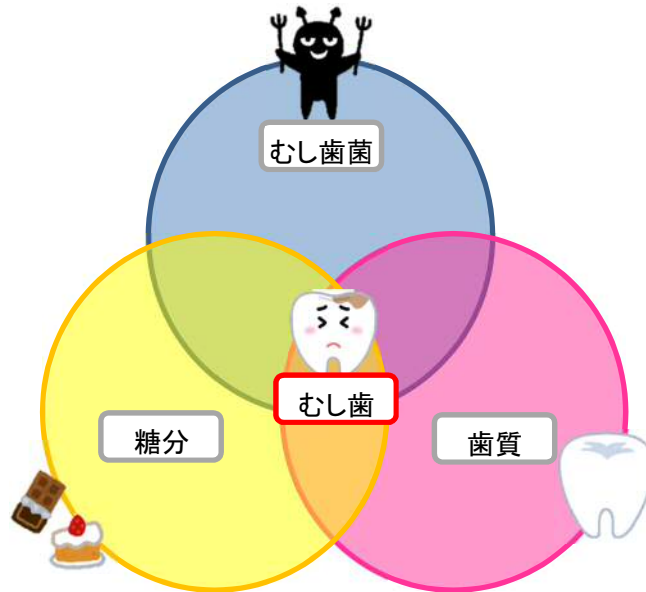


むし歯は遺伝が原因?

答えは“いいえ”です。

むし歯は、食べ物に含まれる糖분을栄養にむし歯菌が活動して酸を作り出し、その酸によって歯が溶けてしまう病気です。

「むし歯菌」「糖分」「歯質」の3つの要因が重なって、ある一定の時間が経過した時にむし歯が発生します。



【むし歯菌】

砂糖を分解してプラークをつくり、さらに発酵分解するために菌から酸が出ます。その酸が歯を溶かします。



【糖分】

飲食物に含まれる糖分がむし歯菌の栄養源になります。



【歯質】

年齢や時期によって歯の質は変わります。例えば乳歯や生えたての歯は、むし歯菌の出す酸への抵抗性は弱いので非常に溶けやすいです。

むし歯は生活習慣の影響を大きく受けます。3つの円が重ならないように、ブラッシングをしてプラークを除去したり、むし歯菌の栄養となる糖分は時間を決めて摂取するという習慣が大切です。



むし菌はどこからやってくるの



むし菌は生まれたばかりの赤ちゃんのお口の中にはいませんが、お母さんなど周囲の人から唾液を介してうつると考えられています。

歯が生えはじめる生後6か月くらいから次第にうつり始め、18か月から31か月くらいで口の中に住み着きます。

家族の中でむし菌のある人はきちんと治療をし、普段からお口の中をきれいにしておくことで感染しにくい環境になると言われています。

～生れてくる赤ちゃんのために今からできること～

赤ちゃんの歯(乳歯)は、お母さんのお腹にいる時に作られています。また大人の歯(永久歯)も半分以上の歯が発育を始めています。



一番身近でスキンシップをしているお母さんのお口の環境がお子さんのお口に大きな影響を与えます。

妊娠中からお母さん自身のお口のケアをすることで、産後の赤ちゃんへのむし菌感染のリスクを減らします。

お母さんを始め、家族全員が自分自身のお口のケアに取り組みましょう。